

企画展「供養する人々」から

死者をあの世へ送る人々



こちらは館山市館山にあった川名写真館に残されていた写真で、昭和17年（1942）12月12日に白浜町（現南房総市白浜町）で撮影されたものです。

写真に写る人々は、亡くなった人を墓地へと運ぶ行列をつくっています。かつては自宅から墓地へと運ぶ自宅から埋葬する墓地まで行列を作って歩いて棺を運びました。鉦かねを持つ女性を先頭に、四本幡しほんぼん、生花、お膳を持つ人々が並んでいます。振袖を着た子どもたちは親族でしょうか。その後ろには遺影・位牌や棺を乗せた輿こしが続きます。

この行列の輿の担ぎ手は女性たちです。葬儀の手伝いのなかでも輿担ぎや穴掘りは男性が行い、女性は勝手（台所）仕事を行うことが多いのですが、房総半島の南端部に位置する白浜は、漁業が盛んで男性は漁に出るため、男性がする仕事も女性たちが行っていたようです。葬列は地域によって異なりますが、鉦・ジャランボンや太鼓など音の出る道具を先頭に、幡を立て、生花・造花や蓮華、塔婆・六角塔婆・七本塔婆、お膳・団子、写真・位牌、棺、バケツ（水）などを持つ身内や手伝いの人々、僧侶、親族、一般会葬者が数十人の列をつくりました。

このような葬送行列は、「野辺送り」と呼ばれ、約30〜40年前までは房州の各地で行われていました。今でも葬列を見たことのある人や、出発する前に鳴らす鉦の音を聞いた人、葬列で配られたキャラメルを覚えていると話す人もいます。葬儀が葬祭場で行われるようになると、写真のような葬列を見かけることはなくなりましたが、今も各地のお堂には、棺を運んだ輿や道具が残されていて、かつての風習の名残を伝えています。

死後への想い

企画展「供養する人々」

お祭りについてお話を聞いていると、「あの人はブツだから今年は出られない」と耳にすることがあります。新しく亡くなった人がいる家や人を「ブツ」と呼んで一定の期間、神社への出入りや神事への参加を遠慮する風習ですが、親戚が多い地域で担い手が少なく祭りの開催が危ぶまれる状況であっても守られることがあるようです。一定の期間とは49日や1年などですが、制限されることがある一方でその間に、遺族は故人のためのさまざまな行事を行っています。今回の展示は、この死者を弔う人々に焦点を当てて開催しました。

展示の導入は安房地域の特徴のあるお墓や供養塔を紹介する「1 墓と供養塔」です。「2 死出の旅」では、葬送行列や葬儀の写真、棺を運ぶ輿、葬儀に使用した叩き鉦、香奠

帳などから、昭和初期から平成初期にかけて行われていた葬儀の様子を、「3 戦争と供養」では、戦病死者の弔いを町をあげて行った様子を紹介しました。「4 あの世へのまなざし」は、供養の風習が生まれ行われる背景として、人々があの世をどのようにみているかを、「5 供養のかたち」は仏壇や切子灯籠など死者を供養する際に用いる道具を紹介しました。「6 変わり

ゆく供養」は、盛大に行われた葬儀を簡素にしようと出された規制や自主的な運動の資料を中心に、変化していく弔いの様子を紹介しました。

供養の方法は口頭で伝えられてきたため文書で残ることはなく、使用した道具は捨てられ燃やされることが多いためほとんど残されていません。しかし、他の調査のために市内を回っている中で、お堂に残された輿や鉦を見つけ、女性たちによる念仏講が葬儀にも出ていたという話を耳にしました。また、棺には紙の六文銭を入れ、お盆には盆棚を飾り、迎え火や送り火を焚いて、お墓へ提灯を持ってお参りをするなど、今も供養する人々の姿はあらゆるところでみかけ、形を変えながらも続いていることを実感します。今回のテーマに少し驚いた方もいたでしょうが、普段、話題にすることの少ない「死」や「供養」について注目する機会になればと思います。



里見氏の歴史は消さない

収蔵資料展「里見家断絶と その後の安房の人々」

令和4年は里見忠義没後400年でした。里見氏を調査研究展示のテーマにしてきた当館では、博物館準備室の開設以来40年にわたり、多くの方々からの寄贈などによって関連資料を収集してきました。その中から展示資料を選りすぐり、里見家が断絶した後の安房の人々が、現代に至るまでどのような思いを里見氏に抱いてきたのかを、里見氏の歴史記録や顕彰事業・研究史などからたどってみました。それは里見氏の歴史を残そうとする人々の歴史でもありました。

あわせて、平成28年から房日新聞に連載された里見氏歴史小説「秋の幻」などの挿絵を用いて、里見忠義の生涯を概観するとともに、昭和初期の里見史研究者大野太平の事績も紹介しました。



400年にわたる里見氏の記録

新・地区展ついに完結

新・地区展「館山―城と湊のまち―」

平成24年度から開催してきた市内10地区の歴史を紹介する「新・地区展」シリーズもついに最終回。今回は博物館の地元、館山地区を取り上げました。館山地区の歴史というと、館山城や里見氏を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。また、館山海軍航空隊や赤山地下壕など、海軍関係の戦争遺跡が多いことでも知られています。この2つの特徴に共通するキーワードが湊です。

この他、館山藩稲葉氏や当地出身の絵師である川名楽山と勝山調、明治期の汽船就航による観光地・保養地の誕生など、館山地区の歴史は幅広く、多くの文化財が知られています。当館の企画展でも過去にこうしたテーマを取り上げてきており、そういった意味では館山地区展はまさにオールスター集合といった感じでした。

その一方、今回の展示調査で初めて確認できた資料もあります。例えば、上真倉と下真倉にまたがる青柳区からは、令和元年房総半島台風で被災した社務所の解体にあたって発見された古文書をお借りすることができました。このうち江戸時代の下真倉村の絵図は、当時の景観や寺社の位置を知ることができる大変貴重な資料です。



寛政5年(1793)下真倉村絵図
青柳区所蔵

ピックアップ八犬伝

70歳の曲亭馬琴？

男性の肖像画の上に和歌などが記された写真の掛軸。上に書かれた書の左端には、「古稀自祝題詠 曲亭馬琴」の文字が見えます。つまり、この和歌は八犬伝の作者である曲亭馬琴が70歳のときに、自らの古稀を祝って詠んだものです。馬琴は明和4年(1767)に生まれており、数え年では天保7年(1836)が古稀となります。内容は「くちもせぬ身さへとしさえたどふれば あだしや名のみ高砂のまつ」とあり、年老いた身が古稀として祝われることに対して、自虐や皮肉を込

資料紹介

関東大震災再建家屋棟札

写真は館山市竹原の米蔵に残されていた棟札です。棟札とは、建物の新築や修理の上棟式の際に、棟木や梁などに打ち付ける木の板で、建築日・施主・工匠のほか、建築の理由や祈願文が記されました。この棟札には、大正12年(1923)9月1日に発生した関東大震災によって倒壊した建物を昭和3年に再建したと書かれています。市内各地の寺社や個人宅には同様の関東大震災に関わる棟札が数多く残されています。

大正15年に発行された『安房震災誌』によると、関東大震災では館山平野に被害が多く、停車場(駅)や郵便局・安房郡役所・警察署・裁判所・測候所・水産試験場・学校など公共施設はことごと

めた内容と読み取れます。批判的精神の強い馬琴らしい和歌と言えるでしょう。

下には書箱に寄りかかって本を読む羽織姿の男性が描かれています。右下には「東岡画」と署名があります。上の書をふまれば、古稀を迎えた馬琴の姿でしょうか。天保7年の馬琴の日記にも肖像画の記述は無く、確証を得ることは難しいですが、馬琴を描いた可能性のある絵としてご紹介します。



とく全壊し、

家屋も北条町

96%、館山町

99%、館野村

96%、九重村

93%、那古町98%、船形町93%が全壊または半壊

しています。被害の大半は倒壊でしたが、館山町や船形町では火災による焼失、富崎村では津波による流失の被害もありました。90%以上の家屋が倒壊した館山平野の鏡ヶ浦沿岸では、建築材料がないため仮の屋根すら掛けられない状況が10日も続いたといえます。

現在の町並みからは想像できない被災状況ですが、関東大震災のために倒壊した建物の再建記録が記された多数の棟札は、市内の甚大な被災状況と再建の喜びを物語っています。



博物館のできごと《ダイジェスト》 令和4年3月～5年2月

寄付資料一覧 ご協力に感謝します(～R5.2月末)

| 寄贈資料名 | 寄贈者(敬称略) |
|-------------------------|------------|
| 『写真機材材料目録』(浅沼商会) | 大阪府 富留宮直美 |
| 菜花出荷用具、花卉出荷用荷札 他 | 鴨川市 佐藤直美 |
| 暗箱カメラ、ミノルタオートコード | 館山市 川名俊明 |
| 打刀拵 | 佐倉市 井原重之 |
| 里見義康印判状(天正19年) | 南房総市 岡崎俊明 |
| 岩崎巴人画「桜桃園」「朱富嶽丹頂図」 他 | 南房総市 波々壁 壽 |
| 新井浦嶋田家古文書、五月節句幟 他 | 館山市 嶋田美智子 |
| キャノン製ワードプロセッサ、フロッピーディスク | 鋸南町 小藤田顕也 |
| 安房神社「浦安の舞」「お田植祭」写真 | 南房総市 金沢睦子 |
| 日の出クレンザーパッケージジ見本 | 東京都 福島宜慶 |
| 秋山新四郎著「裁縫寸法書」 他 | 南房総市 三幣忠男 |
| 国分鍛冶屋製鎌 他 | 館山市 小濱隆平 |
| 里見ウォーキングスタンプラリー用スタンプ 他 | 館山市 愛沢伸雄 |
| 関東大震災再建家屋棟札 | 館山市 篠塚和則 |
| 『元禄八犬伝』、洲崎神社記念海軍砲沿革 他 | 南房総市 岡田晃司 |
| 館山市名誉市民醍醐敏郎関係資料 | 東京都 醍醐道子 |
| 『乙女の日本史』他八犬伝関連書籍・演劇資料 | 館山市 個人 |
| 腰越村飯田家文書、書画 | 東京都 飯田順一郎 |
| 陸軍歩兵山田育造関係資料、絵葉書 他 | 館山市 加藤和代 |
| 国鉄内房線乗車券 他 | 鴨川市 佐藤恵重 |
| JR東日本千葉支社時刻表 他 | 千葉市 山本光正 |
| 短刀(安房国瀬戸住波々壁正智作) | 南房総市 小出一彦 |
| 館山小学校学籍簿 | 館山市 石井 泉 |
| 船模型、同写真、船模型製作用材料 | 館山市 内川 博 |
| 絵葉書(使用済) | 南房総市 小澤忠雄 |
| 館山北條土木出張所関係文書、稽古用木製薙刀 | 館山市 平嶋義久 |
| 万里小路通房書額、神余田中家文書 | 館山市 山田 郁 |
| 房州旅行案内千葉県安房国全図 | 館山市 前田裕子 |
| 富浦村丸山教関係資料 他 | 南房総市 代田健一 |
| 寺田政明画「房州布良」、岩崎巴人画「清閑」 他 | 茂原市 白井雅子 |
| 講仲間用数珠 | 館山市 広瀬孝治 |
| 「鏡ヶ浦鉱泉旅館渚の家」リーフレット | 東京都 牛米 努 |
| 有線放送電話機、中里区有文書 | 館山市 村田光夫 |
| 小幡重一著『響』 | 南房総市 小宮寿夫 |
| ガラス乾板等写真、「九五水偵の想い出」手記 他 | 館山市 長井晃弘 |
| 船釘他船大工用金物 | 鋸南町 菊間嘉則 |

- ◆ 令和4年4月
- 16日 新収蔵資料展「あたらしい資料のご紹介」開催(～6月5日)
- 26日 指定管理者事業(館山城) 館山城写真展開催(～6月30日)
- ◆ 6月
- 15日 館山城展望階壁補修(～8月5日)
- 18日 歴史教室「古文書を読んでみよう」開催(～令和5年1月・4クラス各8回)
- 19日 収蔵資料展「里見家断絶とその後の安房の人々」開催(～9月19日)

- 19日 収蔵資料展解説会開催
- 26日 渚の博物館収蔵資料解説会開催
- ◆ 7月
- 7日 絵図士文化財マップ「里見家の女性たち」発行
- 15日 指定管理者事業(館山城) 南総里見八犬伝浮世絵展「浮世絵でめぐる名場面」開催(～10月30日) ※監修・協力
- 26日・27日 博物館・図書館合同事業「なつやすみ宿題大作戦」開催
- 30日 収蔵資料展解説会開催
- ◆ 8月
- 3日 顔認証型検温機2台設置

- 14日 学芸員実習実施(～9月22日)
- 25日 空気清浄機12台設置
- 27日 歴史教室「活弁八犬伝 里見家VS管領軍 前編」開催
- ◆ 9月
- 19日 収蔵資料展解説会開催
- ◆ 10月
- 22日 渚の博物館収蔵資料解説会開催
- 29日 新・地区展「館山―城と湊のまち―」開催(～12月25日)
- 29日 歴史教室「活弁八犬伝 里見家VS管領軍 後編」開催
- 30日 指定管理者事業(館山城) 館山城開館40周年記念式典・イベント開催 ※協力

- ◆ 11月
- 5日 新・地区展解説会開催
- 19日 指定管理者事業(館山城)「目で楽しむ南総里見八犬伝」開催(～2月19日) ※監修・協力
- 20日 歴史教室「わたしの町の歴史探訪―上真倉・下真倉―」開催
- ◆ 12月
- 10日 新・地区展解説会開催
- 20日 昔のくらし解説(市立豊房小学校)
- 28日 博物館大掃除
- ◆ 令和5年1月
- 1日 指定管理者事業(館山城) 館山城正月臨時開館(～3日)
- 26日 昔のくらし解説(市立船形小学校)
- ◆ 2月
- 28日 分館消防設備改修
- 4日 企画展「供養する人々」開催(～3月21日)
- 8日 博物館協議会開催
- 18日 企画展解説会開催



日枝神社(下真倉)を見学